

もっと知りたい ふるさと

13

波閉科神社

波閉科神社は、延喜式内社の一古社で、上山田の城山の南麓、古大木繁る杜に鎮座していて、女沢川の沢北地区の氏子皆の崇敬を集めている。

祭神は、天照大神と豊受大神、日本武尊の三柱である。社記抄「延喜式内郷社波閉科神社要覽」によると、「天照大神ハ日本武尊勸請シ玉フ」とある。西暦一〇年頃、日本武尊入信し、麻績から冠着山南麓を大鹿へ抜けて見晴らし、この地方をハベシナノ里と命名した。

和銅元年（七〇八）ハベシナ

越沿道に郡発稻設立、発稻駅設置。神護景雲元年（七六七）この付近に波閉科神社が奉建された。嘉祥四年（八五一）ハベシナノ神社等正六位に叙せられたことが、延長五年（九二七）に公布した「延喜式神名帳」に記載されている。

切妻造、平入の建物である。（中略）外削ぎの千木と鞭掛が四本ずつ、堅魚木を五本載せた神明造の社殿である。（後文略）拜殿には、隨身姿の二神の像が安置されている。明治九年（一八七六）時の政策で、地域各所にある諸神を村社等に集め末社として奉祀した。波閉科神社の末社は次の六社である。境内には六社の案内図板が建っている。拜殿の横から宇佐八幡社・住吉社・蚕社・天神社・金比羅社・稻荷社である。この他に、温泉地区で祀っている水天宮がある。又、この境内には氏神を祀る石祠が多数ある。

応仁元年（一四六七）波閉科神社は今の地に移遷。この時代山田城（荒砥城）築城。天文二十三年（一五五三）山田城陥落。永祿二年（一五五九）この頃、波閉科神社兵火にかかり類焼した。天明二年（一七八一）二月三日、ハベシナノ神社と百社大明神は波閉科神社と改称を許可された。文化十年（一八一三）本殿と拜殿を再建した。

明治十二年（一八七九）に大鳥居が再建された。同十四年の「村書上帳」に「社地一町八反六畝二七歩。（中略）飛地境内一〇坪程が、沢北南端字水上地籍十字路の藩治時代の御判場の跡にある。そこには大きな一ノ鳥居が樹立され、道祖神が二体奉置されていた」とある。この飛地境内には、例祭日に五反幟

が立てられる。今の幟は、折口信夫文学博士揮毫による仮名文字の「やまとをぐなかみのみことのはめしより 山田のたなだちまちはらけぬ」逕空と認められている。

祭礼（祭暦）は、一月三日元始祭・三月十九日祈年祭・八月二十一日風鎮祭等が行われる。例祭は、近年になってから秋分の日に行われている。太々御神楽や若者連が取締、屋台掛、相撲掛、花火掛、幟掛、灯笼掛等諸掛を分担して氏子総出で神徳仰欽の大祭を行う。

また、十一月二十三日には新嘗祭が行われている。



案内板には「本殿は拜殿の裏奥にあり、覆屋の中に納められた、桁行三間（三・二m）梁間二間（二・一m）、

飛地境内には、例祭日に五反幟



鎌原 賢司